

弘前城石垣修理

第22回 ～史跡弘前城跡本丸石垣東面（南側）積直し工事の開始～

解体した2,185石のうち910石の積み直しを終え、令和5年1月から冬季休工していた弘前城跡本丸東面の石垣積み直し工事は、3月下旬より仮設足場の設置や築石への番号記入、築石運搬等の作業を再開しており（※1）、ゴールデンウィーク後には、いよいよ重要文化財建造物である弘前城天守が載る南側工区の積み直しに着手しました（※2）。



▲（※1）弘前公園四の丸石材置き場での番号記入作業（令和5年3月末）



▲（※2）石垣積み直し工事の工区分け

今回工事を行う南側工区の大部分は、1896（明治29）年の崩落（※3）に伴い、1915（大正4）年に積み直された石垣で構成されていますが、北側工区よりも破損している築石が多く、補修作業や新しい石の調達に時間を要する見込みです。

また、天守が載る天守台石垣の東面は、下段の築石の間に上段の築石を落とし込む『谷落とし積（たにおとしづみ）』という方法で



▲（※3）明治29年に崩落した石垣（市立弘前図書館蔵）

積みまれています（※4）。この積み方は、城の石垣としては近代以降に主流となったもので、江戸時代からの積み方を受け継いでいる天守台北の石垣とは積み方が大きく異なり、それぞれに積み直しの難しさがあります。



▲（※4）天守台石垣東面の谷落とし積

さらに、石垣解体前の天守台は北東隅で約30cm沈下していたことから、今回の積み直しでは水平に近付けるための高さ調整も行います。石垣の歴史的価値を保ちながら積み直すには、できる限り元の石を使って石の並び順や積み方などを維持する必要があるため、天守台部分の積み直しは非常に難しい作業になります。そのため、天守台石垣については、あらかじめ地上で数段分を仮組みして勾配や高さを調整するなど、入念な準備をした上で本組みに入る予定です。

石垣積み直し工事は令和6年度末に終わる見込みで、令和8年度に実施予定の天守曳戻し工事をもって石垣修理事業は完了となります。その後は、昨年度修理を終えた三の丸追手門や二の丸南門と同様に、重要文化財建造物保存修理事業の1つとして1年かけて天守を調査した後、天守本体の保存修理と耐震補強工事に入る予定です。

市では、史跡・弘前城跡の歴史的価値と重要文化財建造物である天守を守り続けるため、文化庁や専門委員会からの指導・助言等を踏まえた上で、今後も慎重に事業を進めていきます。

今年度は8月5日（土）・6日（日）および11月3日（金・祝）に弘前城跡の史跡・文化財見学修理体験イベントを計画しています。石垣の修理体験ができるのは今年と来年のみとなりますが、これを機に市内に残る数多くの文化財にも興味を持ってもらえれば幸いです。

弘前城本丸石垣修理事業の詳細 <https://www.city.hirosaki.aomori.jp/ishigaki/index.html>

弘前城跡の文化財修理情報『弘前城かわら版』 <https://www.city.hirosaki.aomori.jp/jubun/2022-0331-1107-48.html>

■問い合わせ先 公園緑地課弘前城整備活用推進室（弘前市緑の相談所内、☎ 33-8739）